

徳島県を中心に災害時に食料や建設資機材、燃料などの相互支援を行い、災害対応力の向上を図る地元建設企業のネットワーク「なでしこBC連携」は2日、2019年度第1回なでしこBC連携パトロールとして高知市で女性目線の現場パトロールを行った。

なでしこBC連携

高知市の町の高知県立高知青少年の家で講演会や意見交換も実施した。連携企業の社員を中心に四国地方整備局や自治体の職員ら女性37人を含む82人が参加した。

なでしこパトロールは、戸原海岸消波工災害復旧外工事（施工・福留開発）の現場で実施。

女性目線で安全管理など点検

高知市内の現場パトロール、新たに2社が参加



グループで行った意見交換

南海トラフ巨大地震の発生が危惧され、津波対策が進められる高知県独特の現場を女性目線でトイレや休憩室の管理状況、現場の安全管理などをチェック。種崎地区津波避難センターの見学も行った。

高知青少年の家では、四国整備局高知河川国道事務所の久保宣之所長が「物部川・仁淀川の浸水リスクについて」、高知大学の原忠教授が「南海トラフ地震の被害予測と備え」をテーマに講演。グループに分かれて行われた意見交換では、現場パトロールの感想として「現場がごみも無くきれいだった」「トイレが清潔だった」「暑さに備えて空調服の使用を考えたらどうか」などの意見が出た。

また、新たに連携に加わった福留開発と山本建設との協定式も行われた。協定企業は当初、徳島県の企業でスタートしたが、現在は岡山県と和歌山県、高知県に広がり15社となった。